

市立高等学校・専門学校改革基本計画 素案【概要版】

第1章 市立高等学校・専門学校改革基本計画の策定について

1. 改革の趣旨

- ・高等学校においては最後の学科改編から約 20 年、専門学校については最後の校名変更から約 30 年が経過し、現在の社会及び市民のニーズに応じた新たな時代を見据えた教育内容の見直しが求められている。

2. 計画の位置づけ

- ・「市立高等学校・専門学校改革基本計画」は、「熊本市第 7 次総合計画」（令和元年度中間見直し）及び「熊本市教育大綱（熊本市教育振興基本計画）」（令和 2 年度改訂）の理念を踏まえて策定するもの。

第2章 市立高等学校・専門学校の現状と課題について

1. 必由館高等学校

- ・現状：明治 44 年（1911 年）開校、平成 13 年（2001 年）に校名変更学科改編を行い普通科普通、普通科国際コース、普通科芸術コース、普通科服飾デザインコースを設置し、特色ある教育活動を実施
部活動は文武両面で活躍
地元の私立大学を中心に約 9 割の生徒が進学
- ・課題：学習意欲や学力に生徒間の差が見られ、主体的に学ぶ意欲や態度の育成が必要

2. 千原台高等学校

- ・現状：昭和 34 年（1959 年）開校、平成 12 年（2000 年）に校名変更・学科改編し、普通科に国際経済コースと健康スポーツコース、情報科に O A 会計コースと経営情報コースを設置
自転車競技部、男女陸上競技部、男女ハンドボール部などが活躍
全体の約 6 割程度の生徒が主に地元の私立大学や専門学校へ進学、50～60 名程度が就職
- ・課題：後期（一般）選抜における学校全体の入試倍率が平成 30 年（2018 年）から 2 年連続で低下

3. 総合ビジネス専門学校

- ・現状：昭和 24 年（1949 年）開校、平成 3 年（1991 年）に校名変更、昼間の総合ビジネス科と夜間の O A 経理科を設置し、平成 29 年（2017 年）にコース名及び募集定員を変更
- ・課題：平成 25 年（2013 年）をピークに倍率が低下傾向、O A 経理科は定員の半分程度まで減少
取得する資格や授業の内容等をより魅力あるものにアップデートしていく必要

第3章 市立高等学校・専門学校の改革方針

1 改革の基本理念

- ・自ら考え、主体的に行動し、多様な人々と協働しながら、自らの人生とよりよい社会を創造する力を育てる学校へ改革する。

2 3校に共通する三つの特色

(1) 「市立ならではの」特色ある学校

①学科・設置形態	・必由館高校に附属中学校を設置し、中高一貫した系統的な教育を実施 ・千原台高校に、全日制高校への登校に困難を抱える生徒を受け入れるため、通信制課程を新設 ・専門学校は、起業家育成を中心とした教育課程を編成し、昼間部と夜間部を統合した昼夜開講制へ改編
②少人数クラス編制	・高校は、きめ細かな指導・支援を実施するため、30 人学級編制を実施 ・附属中学校は、探究的学習の質的向上を図るため、25 人学級編制を実施
③学校間連携	・市立高校 2 校の連携強化（単位互換、教員の兼務等） ・市立高校と市立専門学校の連携強化（進学枠設定、授業参加と単位認定等）
④市が所管する地域資源等の活用	・市役所や熊本城等、市の所管する施設・機関と連携した探究学習等 ・市の創業支援関連事業と連携した起業家教育の実施
⑤多様な生徒受け入れ	・市独自の選抜方法へ変更 ・校内での支援体制強化（通級指導の拡充、オンライン教育の推進、外国にルーツを持つ生徒への支援、LGBTQ 等の性的マイノリティの生徒への支援など）
⑥特別活動の充実	・生徒会組織や活動内容を再構成し、生徒による自治を推進 ・部活動の振興、社会潮流や新たな学科等の特質に応じた部活動の創設検討
⑦外部人材の登用	・教育関係者で功績のある外部人材を校長等として登用

(2) 探究的な学びを推進し、社会と積極的にかかわっていく学校

①市・企業・大学等と連携した課題解決型学習	・市役所や市の施設におけるフィールドワーク ・ベンチャー企業の経営者等を講師招聘した講話 ・大学や地域の企業との連携による課題解決学習
②SDGsを中心に据えた探究的学習	・まちづくりや環境、福祉などの諸問題について、課題解決策等の探究的学習 ・熊本地震からの復興や防災・減災をテーマとした地域課題に関する探究的学習
③個別の興味関心に応じた探究課題の設定	・生徒が希望する進路に関する探究や大学、企業等の調査 ・生徒の興味や関心に応じた課題追究的な学習

(3) 生徒が主体的に学校づくりに参画する学校

①生徒主体の探究的な学びの実現	・探究的な学びの授業づくりに生徒が参画する機会を設ける ・市役所や企業・地域団体・大学等との連携構築段階から生徒が参画
②学校運営への生徒の参画	・校則の策定や見直しに生徒が参画する ・生徒が職員と協議、提案する機会を設ける
③生徒の主体性を尊重する 教員の専門性向上	・生徒の考える力を引き出すような授業への改善 ・生徒をファシリテートできる資質・能力の育成

第4章 各校における改革方針

1 新たな必由館高等学校への改革

教育理念 世界的視野と課題解決能力を有するグローバル・リーダーを育成する

課程・学科・概要 〈改革案〉 募集定員 高校 210 名、中学校 50 名

〈現行〉 定員 360 名

課程	学 科	概 要
全日制	グローバル探究科 (仮称) (5 学級・150 名)	・グローバル・リーダーの育成 ・英語や国際理解に関する専門科目を開設し、高い専門性と幅広い視野を持った人材を育成
	芸術探究科 (仮称) (2 学級・60 名)	・芸術の専門人材の育成 ・表現力や創造力をもとに社会課題の解決や新たな社会の創造に取り組む人材を育成
	附属中学校 (2 学級・50 名)	・少人数での中高一貫した教育で、グローバル教育と探究的な学びを推進

課程・学科等
全日制 普通科 ・普通 (6 学級・240 名) ・国際コース (1 学級・40 名) ・芸術コース (1 学級・40 名) ・服飾デザインコース (1 学級・40 名)

2 新たな千原台高等学校への改革

教育理念 情報やビジネス、スポーツに関する高い専門性を有するスペシャリストを育成する

課程・学科・概要 〈改革案〉 募集定員 全日制 160 名、通信制 80 名程度 〈現行〉 募集定員 200 名

課程	学 科	概 要
全日制	情報ビジネス探究科 (仮称) (4 学級・120 名)	・ビジネスリーダーやローカルリーダーの育成 ・企業や個人での発信等に挑戦できる人材を育成
	スポーツ探究科 (仮称) (1 学級・40 名)	・スポーツの専門人材の育成 ・スポーツ振興や健康づくりの観点から、地域の活性化を担う人材を育成
通信制	情報ビジネス探究科 (仮称) (80 名程度)	・登校に困難を抱える生徒等の学習機会を保障 ・オンラインによる通信教育の実施 ・総合ビジネス専門学校へ進学可能

課程・学科等
全日制・普通科 ・健康スポーツコース (1 学級・40 名) ・国際経済コース (1 学級・40 名)
全日制・情報科 ・OA 会計コース (2 学級・80 名) ・経営情報コース (1 学級・40 名)

3 新たな総合ビジネス専門学校への改革

教育理念 ▶ **起業家育成**を柱に、新たな時代に対応したビジネス教育を行う学校

課程・学科・概要 ▶ **〈改革案〉 募集定員 70 名**

〈現行〉 募集定員 90 名

課程	学 科	概 要
専門 課程	ベンチャービジネス科 (仮称) (70 名) (昼夜開講制へ 変更)	・起業に関する学習を中心に行い、在学中に実際に起業することを目指す ・自らのアイデアを起業につなげ、地域に新たな価値を創造する人材の育成

課程・学科等
専門課程（昼間部）総合ビジネス科 ・情報ビジネスコース（36 名） ・経理ビジネスコース（17 名） ・観光サービスコース（17 名） 一般課程（夜間部）OA 経理科（20 名）

第 5 章 スケジュール（予定）

内容	R3	R4	R5	R6～
附属中学校 高等学校 (全日制課程) 専門学校	教育課程編成 選抜方法検討 採用計画 外部人材選任	教科書選定、広報活動 生徒募集、体験入学 人事異動、新規採用 教員研修、選抜実施	開校予定	
高等学校 (通信制課程)	教育課程検討・編成 管理運営体制検討 採用計画	教育コンテンツ検討・開発 学習管理システム検討・開発 採用		R6以降開校